

令和3年 新春記者会見 要旨

1 はじめに

- ・ 謹んで、新年の挨拶を申し上げます。
- ・ まずは、現在も新型コロナウイルス感染症に対し、最前線で献身的に従事されている皆様に敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。
- ・ 昨年11月の市長選挙において、5期目の市政運営をお預かりすることとなり、気持ちを新たに、未来へのまちづくりに取り組む。

2 昨年を振り返って

(1) 新型コロナウイルス感染症について

- ・ 昨年を振り返ると、まさに新型コロナウイルス感染症との闘いの1年
- ・ 本市においては、市民の生命と暮らしを守るため、ドライブスルー方式によるPCR検査の早期実施や、中小企業に対する助成など、本市独自の対策を迅速かつ柔軟に実施
- ・ 本市の無病息災の象徴である「黄ぶな」を用いた「黄ぶな運動」など、関係者の皆様の創意工夫と熱意により、困難な状況の中で助け合う活動が広がり、多くの人に勇気と希望を与えるなど、市民の皆様の底力が発揮

(2) 本市のまちづくり

- ・ 本市の未来都市の実現に向け、大きく前進した年
- ・ LRTについては、清原工業団地内でのレールの敷設開始、JR宇都宮駅西口のルート構造を選定
- ・ 「スマートシティ」については、全国初となる、街なか全体をフィールドに、AIカメラなどを活用し、3密の回避や回遊性の向上を図る実証実験を実施

(3) 東京オリンピック

- ・ 東京オリンピックについては、自転車ロードレースに、宇都宮ブリッツェンの増田成幸選手、スポーツクライミングに檜崎智亜選手が出場予定

3 年頭に当たっての抱負

(1) 喫緊の課題である「安全・安心」の確保

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大防止と、社会・経済活動の両立をはじめ、洪水被害を抑えるための総合的な治水・雨水対策の強化など、「安全・安心」を確保
- ・ 特に、新型コロナウイルス感染症対策として、ここ最近の感染状況や、医療のひっ迫状況を踏まえ、1月6日に、本市独自の「緊急事態宣言」を发出

- ・ 市民の皆様においては、改めて、感染防止対策の徹底に協力をお願いする。
- ・ アルコールを提供する飲食店の皆様に対し、栃木県の営業時間短縮への協力金に、本市独自の上乗せをしていく。大変厳しい状況であるが、営業時間短縮にご協力をお願いする。
- ・ この危機的状況を乗り越えるため、「うつらない、うつさない」対策の徹底に「オール宇都宮」で取り組む。

(2) 中・長期的なまちづくり（100年先も輝き続ける宇都宮）

- ・ 人口減少、少子・超高齢社会においても、「人や企業から選ばれるまち」として、持続的に発展
- ・ このため、「ネットワーク型コンパクトシティ」（以下「NCC」という）の形成に向け、中心市街地の活性化や、魅力ある地域拠点の形成と、利便性の高い総合的な公共交通ネットワークの構築に、引き続き取り組み、骨格の強い都市構造を具現化
- ・ さらに、まちづくりの基盤である「NCC」のもと、市民の生活の質の向上や社会・経済活動の活性化がこれまで以上に図れるよう、あらゆる分野において、ICTなどをいち早く取り入れ、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパー・スマートシティ」を実現

4 令和3年の主な取組

(1) 新型コロナウイルス対策

- ・ **新型コロナウイルスワクチン**
⇒ 新市民が円滑かつ迅速に予防接種を受けられる体制の準備（令和3年前半）
- ・ **感染拡大防止と社会・経済活動の両立**
⇒ 新事業者や、高齢者などに対するPCR検査等の費用の助成
⇒ 本市独自の「新型コロナウイルス感染症対策特別資金」の期間延長など、迅速かつ柔軟な支援の展開
⇒ 感染症に係る情報や支援制度の情報発信（広報紙、HP等）

(2) 子育て・教育の未来都市

- ・ **結婚から子育てまで切れ目ない支援の充実**
⇒ 新新婚生活のスタートに対する支援（住宅賃借費用等の支援）
⇒ 新こども医療費助成の高校3年生までの拡大（令和3年4月～）
⇒ 新妊産婦医療費助成等の自己負担廃止（令和3年4月～）
⇒ 年間を通じた待機児童ゼロの達成に向けた保育施設等の整備
- ・ **ICTを活用したきめ細かな教育の展開**
⇒ 全ての児童生徒や担任教員を対象とする合計約4万3千台のICT端末の導入（令和3年3月）
⇒ 新AIドリルの活用に向けたモデル事業の実施（理解度に応じた問題を解き進めることができるAI型個別学習ドリルの試行導入）

⇒ **新**家庭でのICT端末を活用した学習，通信環境の支援（令和3年度～）

・ **教育環境の充実**

⇒ 市内25校全ての中学校体育館への空調設置（令和3年7月まで），

新令和4年度の69校全ての小学校体育館への設置に向けた準備

(3) **健康・福祉の未来都市**

・ **健康づくりの推進**

⇒ **新**オンライン健康講座の開設

⇒ アプリを活用した健康ポイント事業

・ **地域包括ケアシステムの深化・推進等**

⇒ 障がい者の共同生活の場である，グループホームの整備

⇒ 地域における見守りや支え合い活動を推進する「第2層協議体」の全地区設置

⇒ 地域に密着した介護サービスの充実（認知症高齢者グループホーム等の整備）

⇒ 地域別データ分析を活用した介護予防活動の促進

⇒ 認知症の人や家族に寄り添い支援する「認知症パートナー」の養成

・ **地域共生社会の実現**

今後は，高齢者や障がい者，子どもなどの世代や分野を横断する課題への対応として，

⇒ 地域の中で共に支え合う環境づくり（意識醸成など）

⇒ **新**地域包括支援センターなどの市民に身近な相談機関の連携強化（保健福祉拠点間のリモート会議導入）

(4) **安全・安心の未来都市**

・ **総合的な治水・雨水対策の推進**

⇒ **新**河川整備の優先順位や，流域における貯留量などの目標を定める「(仮称)総合治水・雨水対策推進計画」の策定

⇒ 河川整備などによる「流す」取組

⇒ 田んぼダムなどによる「貯める」取組

⇒ 道路冠水等を示す内水ハザードマップの作成などによる「防ぐ・備える」取組

・ **安心して利用できる避難所の実現**

⇒ **新**避難所における，太陽光発電システムや電気自動車の活用による安定した電力供給の実証実験

・ **地域まちづくり活動への支援**

⇒ **新**まちづくり活動に積極的に取り組む，「頑張る地域」に対する支援の充実（自治会への支援）

(5) **魅力創造・交流の未来都市**

・ **大谷ミュージアムパークの創造**

⇒ エリア内を周遊するための玄関口となる，新たな周遊拠点の整備

⇒ **新**大谷石文化やアートなど多様なコンテンツに触れて，見て体験し，感動を得られるよう，地域全体を「大谷ミュージアムパーク」として創造

- ・ **大谷石建築物等の保存・活用**

- ⇒ **新**大谷石建築物等の保存・活用の支援による「石の街うつのみや」の魅力向上

- ・ **トップレベルのスポーツに触れられる機会の創出**

- ⇒ 東京オリンピックの3 x 3 競技出場国による事前トレーニングキャンプ

- ⇒ **新**5 Gなどを活用した臨場感あふれる観戦環境の提供

- ⇒ **新**「いちご一会とちぎ国体」リハーサル大会の開催

(6) 産業・環境の未来都市

- ・ **あらゆる産業のデジタル革命の推進**

- ⇒ 「農業王国うつのみや」の発展に向けたスマート農業の推進

- ⇒ 中小企業の経営力強化，生産性の向上に資するICTの導入促進

- ⇒ **新**様々な人や企業が自由に交流・連携できる場，シビックテックを育む場や機会の創出

- ・ **テレワーク体験機会の創出**

- ⇒ **新**大谷地域や釜川周辺などにおけるテレワークの体験機会の提供

- ・ **脱炭素社会の実現，SDGsの達成への貢献**

- ⇒ **新**地域新電力会社を設立（令和3年4月目途）し，再生可能エネルギーをLRTなどで地産地消するとともに，電気事業の収益を活用して地域課題を解決する「宇都宮モデル」を構築

(6) 交通の未来都市

- ・ **LRT整備の推進**

- ⇒ JR宇都宮駅東側における令和4年3月開業に向けた整備工事の着実な推進，開業に合わせた駅東側のバス路線の再編

- ⇒ 駅西側における整備区間の決定などの早期事業化に向けた取組の推進

- ・ **LRTを活用したまちづくり**

- LRTの効果を市全体に波及させるため，

- ⇒ JR駅東側におけるLRT沿線のまちづくりの具現化，LRTの駅西側への導入を見据えたまちづくり

- ⇒ バス路線の再編などによる中心市街地と地域拠点間のアクセス性向上などによる，居住や医療，商業等の機能誘導など，魅力ある地域拠点の形成

- ・ **誰もが移動しやすい環境の整備**

- ⇒ **新**交通ICカード「totra」を活用した高齢者外出支援事業の自己負担廃止（令和3年4月～），バス利用が1乗車あたり500円以下となる「上限運賃制度」の導入（令和3年夏頃）

- ⇒ **新**河内地域，清原地域における，AIを活用した地域内交通の実証実験の実施（令和3年2月～）

5 むすび

- ・ 劇的に変化し続ける時代にあっても、本市が将来にわたって成長し続けるため、徹底した行財政改革による持続可能な財政構造の堅持
- ・ 市民、地域団体、事業者との協働によるまちづくりをより一層推進
- ・ 今後とも、本市が、人や企業から選ばれるまちとして日本をけん引し、100年先も輝き続けられるよう、今を生きる市民と、未来を生きる子どもたちの誰もが豊かで幸せに暮らすことができるまちづくりに全身全霊で取り組む所存